

## Ms. Allyson Pannier の紹介



私は Allyson Pannier (アリソン・パニエル) といいます。2012年3月から企業会計基準委員会 (ASBJ) で働いています。ASBJでの私の業務は、スタッフに財務報告の事項についてアドバイスすることと英語でスタッフと話をすることです。

オーストラリア勅許会計士協会の勅許会計士 (CA) としては、キャンベラでの税務及びビジネスのアドバイザーとしての業務からの大きな転換ですが、私は心から楽しんでます。

私は Wagawaga (ウォガウオガ) という名のオーストラリアの地方都市で育ちました。ウォガウオガの人口は5万人なので、日本の基準でいうと小さな町です。高校卒業後には、Charles Sturt University (チャールズ・スタート大学) で会計学を専攻し経営学の学士号を取得しました。その後、オーストラリアの首都キャンベラに移り、Maxim Chartered Accountants という名のキャンベラの事務所で働き始めました。成長中の事務所の一員であったことはとても楽しいことで、日本に来るまでの10年間をこの事務所で過ごしました。

キャンベラの会計事務所での私の業務にはさ

まざまなものがあり、毎日、さまざまなクライアントのために仕事をするというチャレンジを経験できました。私の業務としては、税務上のアドバイスの提供、事業プロセスの改善、大規模な政府公益事業の民営化に対する事務局業務、国際的企業の財務報告書の作成などがありました。

私は会計士としての仕事を常に楽しんできましたが、趣味の時間も持つようにしています。私は料理が好きで、週末には夫と一緒に料理をしています。でも、私が本当に好きなことは旅行です。夫はオーストラリア政府で働いているのですが、東京への赴任が決まった時は二人ともとても感激しました。

東京には2010年3月に来ました。最初の数日間は整理に追われていましたが、1つだけ記憶していることがあります。それは、降り立った瞬間から東京が大好きになったということです。私は以前に5日間、東京を旅行したことがあり、フレンドリーですばらしい街を満喫しました。ある場所で生活することは旅行者であることとは違いがありますが、日本はきっと住むのが好きになる場所だと分かりました。

私は来日後すぐに、オーストラリア大使館の会計部門で18か月の契約で働き始めました。この契約の満了後、とても幸運なことに、ASBJでの現在のポジションと中央大学のアカウンティング・スクール (大学院国際会計研究科) でのIFRS客員講師のオファーをいただきました。どちらの仕事も本当に楽しんでます。おかげで、多くの素晴らしい日本の人々と会うことができ (特に ASBJ のスタッフはいつも助けてくれますし、とてもフレンドリーで

す)、私の会計の経験を日本にいる間も活用することができます。

日本での暮らしには素晴らしいことがたくさんあります。まず、食べ物が素晴らしいです。好きな日本の食べ物は何かとよく質問されますが、1つだけ選ぶのはとても難しいです。刺身と寿司はいつも一番になりそうですが、焼き鳥、お好み焼き、そばが僅差で続きます。

日本は、旅行するのも素晴らしい場所です。夫と私が日本にいられる期間は限られていますので、この国のできるだけ多くのものを見たいと思っています。そのための良い方法として私たちが決めたのは、すべての都道府県を訪れることです。簡単に行ける所もあり、行くのが少し大変な所もありますが、目標達成に向け

てゆっくりと進んでいます。訪れる場所はどれも興味深くユニークで、みなさんとても歓迎していただきますので、日本はなんて素晴らしい場所なのかと絶えず気付かされます。私たちは現在、(47都道府県のうちの) 27を訪れていますので、残りはあと 20 です。

夫の東京での任期は 2014 年 2 月で終わります。残りが 2 年足らずとなり、ここでの時間を大切にしたいと思っています。

日本は素晴らしい国で、ここで生活できてとても幸いです。そして、私の会計の経験を生かして日本で仕事ができることも非常に幸運と感じています。税務とビジネス助言の専門家として、私は確かに国際的な会計基準の開発や適用について多くのことを学んでいます。